# 七月文月能

七月四日（土）
午後十二時始

12:00
**松尾**
シテ 土屋周子 ツレ 武田伊左 ワキ 福王和幸 ワキツレ 村瀬提 ワキツレ 矢野昌平 間 山本則重
大鼓 柿原光博 小鼓 大村華由 太鼓 大川典良 笛 小野寺竜一
後見 東川尚史
地謡 辰巳和磨 和久荘太郎 大友順 川瀬隆士 金井賢郎

13:20
**鬼瓦**
山本則秀
若松隆

13:45
**清経**
シテ 広島栄里子 ツレ 内田朝陽 ワキ 野口敦弘
大鼓 柿原孝則 小鼓 清水和音 笛 栗林祐輔
後見 小林晋也
地謡 衣斐実愛 石黒都 久貫弘能 柏山聡子 葛野りさ

〈休憩十分〉

14:55
**三輪**
シテ 関直美 ワキ 安田登 間 山本泰太郎
大鼓 大倉栄太郎 小鼓 岡本はる奈 太鼓 林雄一郎 笛 八反田智子
後見 水上優 東川尚史 朝倉大輔
地謡 土屋周子 柏山聡子 石黒実都 衣斐愛 葛野りさ

〈休憩十分〉

16:35
**蝸牛**
山本則孝
若松隆 山本則秀

17:00
**来殿**
シテ 後藤裕子 ワキ 大日方寛 ワキツレ 野口能弘 〃 梅村昌功 間 山本凜太郎
大鼓 大倉慶乃助 小鼓 森貴史 太鼓 姥浦理紗 笛 藤田貴寛
後見 宝生和英
地謡 今井基 金森良充 小倉伸二郎 金森隆晋 藤井秋雅

終演予定 十七時五十分頃

## 演目の解説

**能「松尾」（まつのお）**
当今に仕える臣下が松尾明神に参詣すると、紅葉を愛でる老人と若い男に会います。老人は臣下と言葉を交わし、神徳を讃え、和光同塵本地垂迹の理を説き、松尾明神は我なりと明かして、臣下に礼を述べ、夜神楽を待てと言って消えて失せます。その夜松尾明神が本体で現し、秋の夜を惜しむ舞を舞い、一曲です。宝生流だけに残る珍しい型的な脇能であります。「高砂」「弓八幡」と同じく、神舞を舞うなど、滅多に上演されない典型的な脇能であります。

**狂言「鬼瓦」（おにがわら）**
永く在京の田舎大名、訴訟も無事解決し、これもら信仰する因幡堂薬師のおかげと、帰郷するにあたり先立ちお堂の屋根の破風の上の鬼瓦のふと目にとまるものが、国許の薬師堂に参詣しますのいかつい顔つきに似ての残しの破風の上の鬼瓦のふと目にとまるかしさと恋しさのあまり、ついるのに気づき、懐い、家来の太郎冠者に慰められて泣きいそいで帰ってゆきます。

**能「清経」（きよつね）**
平清経の家来淡津三郎は、入水した清経を訪し持ち、都に上って来ます。淡津三郎を報告し、清経の妻に、三郎は残りがる清経の入水の上京を船に形見を前にて夢にた形見の黒髪を手渡しまいます。嘆き悲むと、清経に自死して行く自分がなりしも姿でまいます。清経は自死して行く自分がなりしも姿でまいます。清経は自死して行く自分がなりしも姿でまいます。清経は